III　資料編

「小金井市次世代育成支援に関するニーズ調査･アンケート調査」の概要

【調査の目的】

次世代育成支援対策推進法が平成15年７月に制定されたことに伴い、市では、次世代育成支援のための行動計画を策定するに当たって、市民の皆さんの子育て支援に関する生活実態やご要望・ご意見などを把握し、この計画に反映させることを目的として、小金井市次世代育成支援に関するニーズ調査およびアンケートを実施しました。

【調査の設計】

①調査地域：小金井市全域
②調査対象・調査の回収結果

調　査	対　象　区　分	対象者数	有効回収数	有効回収率
ニ ー ズ 調 査	就学前児童の保護者	1,500	889	59.3%
	小学校児童の保護者	1,000	521	52.1%
アンケート調査	中学生・高校生の年代の男女	1,000	280	28.0%
	中学生・高校生の年代の青少年の保護者	1,000	310	31.0%

③抽出方法：住民基本台帳を用いた無作為抽出
④調査方法：郵便による配布・回収（お礼を兼ねた督促葉書を１回発送）
⑤調査期間：▷ニ ー ズ 調 査＝平成16年２月６日（金）～２月17日（火）
▷アンケート調査＝平成16年８月６日（金）～８月24日（火）

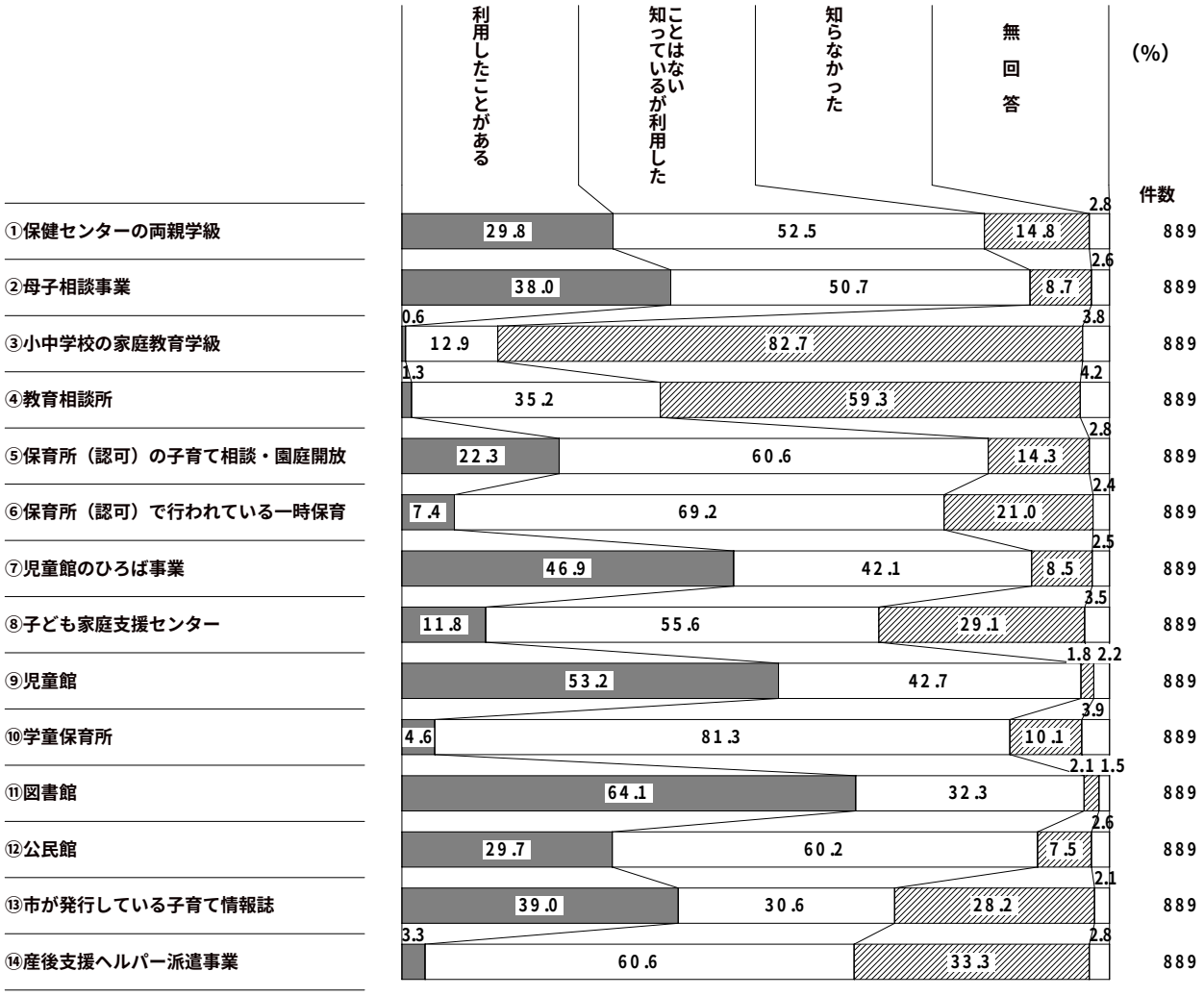
【調査結果】

概略は次のとおりです。なお、詳細については「小金井市次世代育成支援に関するニーズ調査報告書」、「小金井市次世代育成に関するアンケート調査報告書」として、情報公開コーナー（市役所第二庁舎６階）および子育て支援課で閲覧できます。

【次世代育成支援に関するニーズ調査】

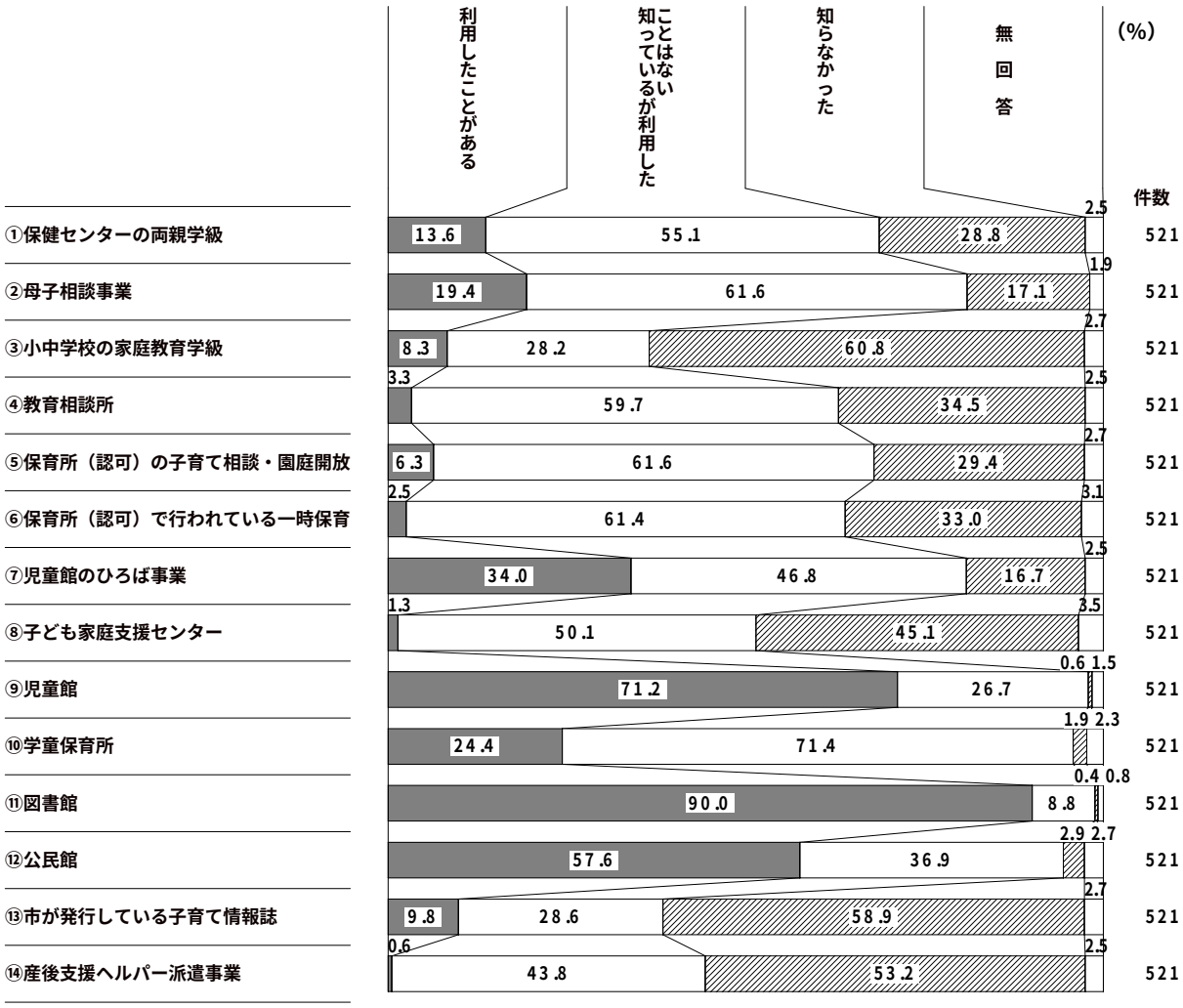
■小金井市が実施している子育て支援サービスの認知度・利用状況

＜就学前児童の保護者＞



■小金井市が実施している子育て支援サービスの認知度・利用状況

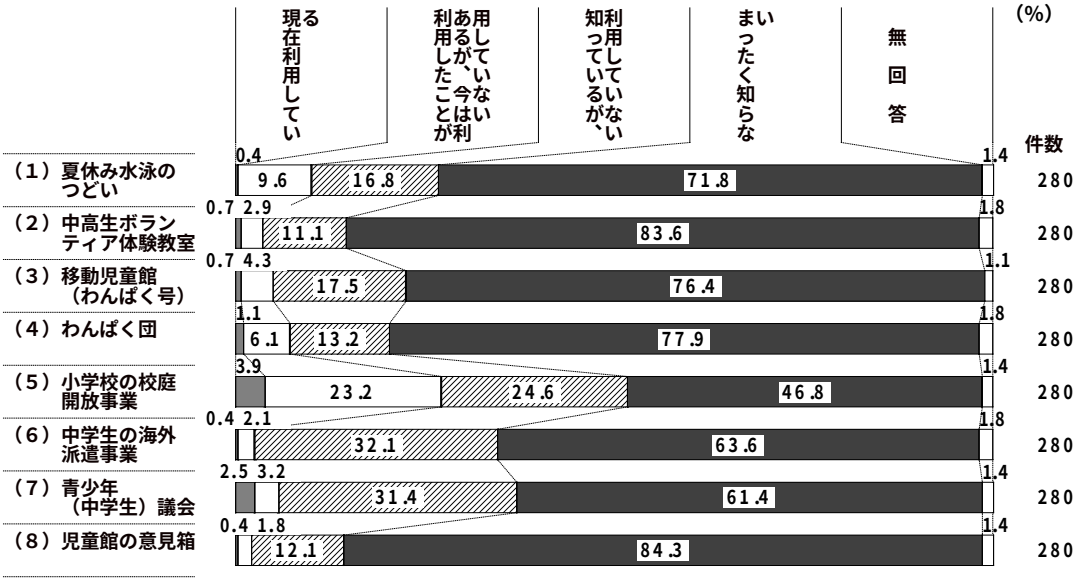
＜小学生児童の保護者＞



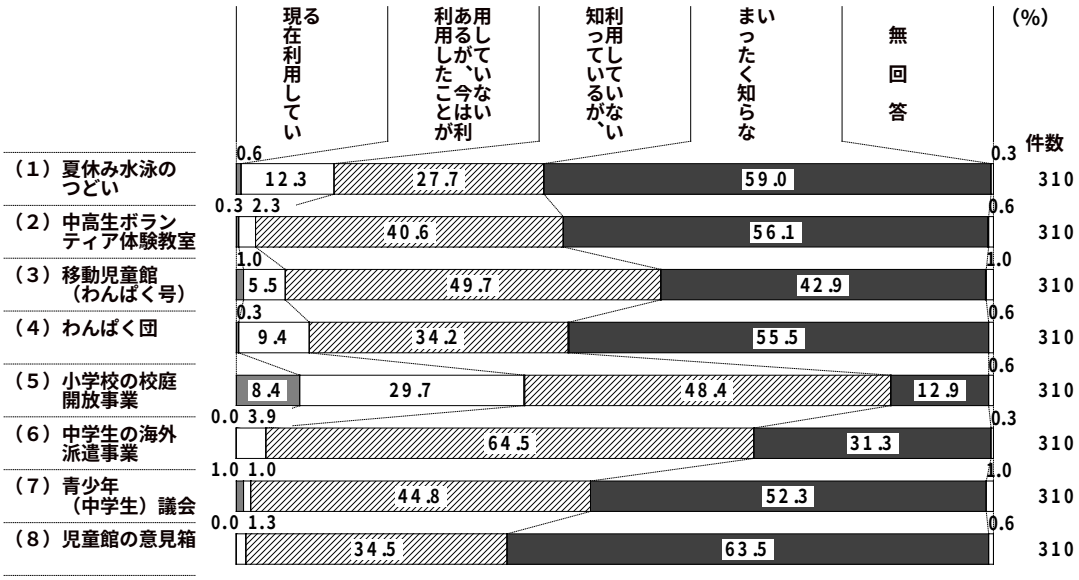
【次世代育成支援に関するアンケート調査】

■小金井市が中高校生向けに実施している事業等の認知度・利用状況

＜中学生・高校生の年代の男女＞



＜中学生・高校生の年代の青少年の保護者＞



「のびゆくこどもプラン 小金井」推進市民会議委員名簿

選任区分		氏　　名	備　　考
学識経験者	福祉・教育関係	森　　司朗	会長、平成16年８月まで
		田村　　毅	平成16年８月から
		島村　　紘	平成17年３月まで
		田尻　洋二	平成17年４月から
		新保　佳子	平成16年８月まで
		布目　陽子	平成16年８月から
子ども関係団体	保育所関係	土屋　多喜榮	平成16年８月まで
		杉山　うた子	平成16年10月から
		成清　初美	会長
	保育室関係	安藤　能子	職務代理
	学童保育所関係	野垣　成惠	
公募委員	市民	近藤　　泉	
		高橋　　智	
		邦永　洋子	

「のびゆくこどもプラン 小金井」推進市民会議開催経過

【策定委員会開催経過】

回数	年　月　日	審　議　事　項　等
第１回	平成15年８月28日	委嘱状交付、会長の互選・職務代理の指名、委員の自己紹介、所掌事項の依頼等
第２回	平成15年10月７日	次世代育成支援との関連並びに取組と目標設定、ニーズ調査について
第３回	平成15年11月25日	ニーズ調査（就学前児童・小学生）について
第４回	平成16年１月20日	ニーズ調査（就学前児童・小学生）最終案の検討と都指定14項目について
第５回	平成16年３月23日	中高生ニーズ調査と子ども権利関連アンケートについて
第６回	平成16年４月27日	中高生ニーズ調査項目検討
第７回	平成16年５月31日	中高生ニーズ調査（中高生本人用）最終検討
第８回	平成16年６月29日	中高生ニーズ調査（保護者用）最終検討
第９回	平成16年７月27日	今後の委員会の方向性と進め方について
第10回	平成16年８月24日	母子保健計画と市町村行動計画の関連と中間取り纏めについて
第11回	平成16年９月21日	ヒアリング調査とスクールカウンセラーについて
第12回	平成16年10月19日	会長互選・職務代理の指名、ヒアリング調査と起草委員会について
第13回	平成16年11月16日	ビデオ放映（川西市）・教育委員会へのアンケート調査最終確認・その他ヒアリング（スクールカウンセラー含む）
第14回	平成16年12月14日	12月16日児童相談所講演、児相へのアプローチ方法 外国人世帯・ひとり親世帯・幼稚園・一時保育や延長保育等についてのヒアリング
第15回	平成17年１月13日	障害児の保護者、ひとり親世帯（支援サービス）ヒアリング報告、児相ヒアリング対処、シンポ意見集約
第16回	平成17年２月17日	「母子保健の充実」についての説明と担当委員よりのヒアリング報告、シンポ意見集約
第17回	平成17年３月15日	シンポジウム検討、事業計画の検討等
第18回	平成17年４月21日	シンポジウム、健康課関係事業、次世代の組み入れについて、事業計画の検討
第19回	平成17年５月31日	見直し概要版（素案）の点検と確認、パブリックコメント及びのびゆくこどもフェスタについて
第20回	平成17年７月７日	見直し概要版の点検・確認
第21回	平成17年７月28日	市長報告、市長への意見・要望、会議感想等

【起草委員会開催経過】

回数	年　月　日	審　　議　　事　　項　　等
勉強会	平成16年９月18日	各種資料・調査報告書等の読み込み
第１回	平成16年10月26日	「のびゆくこどもプラン　小金井」見直しのポイント整理、今後の予定
第２回	平成16年11月９日	教育委員会に対するアンケート調査等の内容検討と調査表（案）作成
第３回	平成16年11月30日	ヒアリング対象者とヒアリング実施日の検討、並びに一時保育実施園へのヒアリング実施
第４回	平成16年12月７日	NPO法人、シルバー人材センターへのヒアリング報告と今後実施予定のヒアリング対象者リストアップ
第５回	平成17年１月11日	プラン見直しの作業方法・分担について、ヒアリングについて
第６回	平成17年１月25日	シンポジウムについて、ヒアリングについて
第７回	平成17年２月８日	ヒアリングについて
第８回	平成17年２月22日	シンポジウムについて
第９回	平成17年３月８日	フォーマットや全体の構成の議論と計画各項目の具体的見直しの確認
第10回	平成17年３月22日	全体の構成、のびゆくこどもフェスタについて
第11回	平成17年４月５日	全体の構成、のびゆくこどもフェスタについて
第12回	平成17年４月12日	全体の構成について
第13回	平成17年４月19日	全体の構成について
第14回	平成17年４月26日	各事業項目の検討
第15回	平成17年５月17日	各事業項目の検討
第16回	平成17年５月24日	各事業項目の検討
第17回	平成17年６月14日	各事業項目の検討

【ヒアリング開催経過】

対象団体	開　催　日	懇　　談　　の　　内　　容
ＮＰＯ法人・ シルバー人材センター・ 子育て支援担当者	平成16年12月７日	「在宅子育て支援」の現状と課題について 意見の聴き取り
障害児の保護者	平成17年１月13日	（１）障害認定をめぐる問題について （２）一時保育について （３）障害児支援の充実について
ひとり親世帯 (支援サービス受託業者)	平成17年１月13日	ヘルパー派遣の現状と課題について
社会福祉協議会	平成17年１月18日	ボランティア派遣の現状と家庭福祉委員制度について
児童相談所	平成17年１月21日	児童相談所の現状と市および市民の今後の取り組みについて
外国人世帯と ひとり親世帯（保護者）	平成17年１月23日	（１）外国人世帯への広報活動について （２）緊急時の一時保育対応について
幼稚園（組織）	平成17年１月29日	小金井私立幼稚園協会園長会（みどり・こどもの国・聖霊・貫井南・教会幼稚園・朋愛） （１）幼稚園教育のおかれている現状について （２）一時保育実施園の現状について
一時保育実施園	平成17年１月31日	貫井保育園（一時保育･放課後の預かり事業･ひろば事業）の実施状況と課題について
教育委員会	平成17年２月１日	人権教育の推進、意見表明の機会、心身障害教育、豊かな人間性・社会性を育む教育、少人数指導について
スクールカウンセラー	平成17年２月10日	スクールカウンセラーの事業実態と課題について

「のびゆくこどもプラン 小金井」の策定を終えて

森　　司朗

平成15年８月より平成16年７月までの計９回、「のびゆくこどもプラン 小金井」推進市民会議の会長という貴重な経験をさせていただき、多くのことを学ぶことができました。福祉教育関係、保育所関係、保育室関係、学童保育所関係、公募による市民の代表という幅のある人選から構成された各委員の方々から支えていただきながら、各回の会議を行っていたことを思い出します。

各委員がよりよい小金井市にするために、子ども達のために、子育てする親のために、会議のたびごとにいつも積極的な意見を提案していただき、会議の時間があっという間に終わったことが思い出されます。委員のご意見で、会議だけでは見えないところに関して、ヒアリングを行ったこともありました。私事で会議途中で職場の異動という事態になり、最後までかかわれなかったことは残念なことでしたが、今回完成した「のびゆくこどもプラン 小金井」はきっとこれからの小金井市の子ども達にとって重要な役割を背負ってくることになるに違いないと思います。

最後になりますが、任期中は、阿部福祉保健部次長をはじめ、事務局の方々、会長職務代理をしていただいた安藤能子委員のご協力をいただき会議が進められたことに感謝しております。

田村　　毅

市内に拠点を持つ学芸大学の教員としては、「象牙の塔」に閉じこもるのではなく、地域の人たちとの交流を深めたいと思い、委員も仰せつかりました。十分な活動時間を確保できませんでしたが、多くの市民の方々の声に触れることができたのは実りでした。

新しくできた子ども家庭支援センターは、私の職場の近くにあり、これからも協力していけたらいいなと思っています。子どもの育ちを社会が直接支えたり、子どもを育む家族も支えたり。これからの市民に課せられた課題は大きいと思います。子育て支援は本格的に始まって日が浅く、これからが正念場です。今は、まだ途上の部分も、市民の皆さんと共に良いものを作っていきたいと思います。

私の専門（児童・思春期精神医学、家族療法）が地域の皆さんにも役に立てることを願っています。

島村　　紘

校長会の代表として会議に出席してとても驚いたことは、子育てについて長年実践研究されている方がほとんどだったことです。

私自身、小学校の勤務が長かったのですが、わが子の子育ては、妻に任せきりで、「自分は素人」という実感をもちながら、学びの場とさせていただきました。学校に関することは、いろいろ発言し役に立ってもらおうと頑張りました。

現在の小中学校の実態、都や市の教育委員会の考え、校長の学校経営などについて話したことを覚えています。少子化にブレーキをかけなければ、日本社会の維持が困難になります。

小金井市が、今後とも子育てについてよりよい方向を創出し「親に抱かれていたり、手を引かれたりして笑顔がこぼれているたくさん子どもがいる市」になってほしいと思います。

田尻　洋二

「のびゆくこどもプラン 小金井」の推進市民会議委員として、この４月より担当させていただきました。

今回の３年目の見直し作業に当たって、学校関係者の立場で意見を述べさせていただきましたが、時間の経つのも忘れる程、委員のみなさんの白熱した議論が展開され、「のびゆくこどもプラン」に対する熱い思いと意気込みの強さを感じました。

さて、「子どもは未来からの留学生」だといわれます。また、「子どもは社会の宝」だともいわれています。

学校教育に携わるものとして、日々の教育活動の中で、このことの意を強くしているところです。子どもは元来、夢や希望を持ち、もっとよくなりたい、もっと挑戦したいと求めてやまない存在です。

この子どもたちに希望のある未来を手渡すのは私たち大人の責務です。今、子どもたちを取り巻く状況が激変し、子育てについての悩みや不安も増大し複雑化しつつある中、この「のびゆくこどもプラン 小金井」の果たす役割は実に大きいといえます。

その意味で、このプランの見直し作業に多少でも関わらせていただいたことを嬉しく思っています。今後、「のびゆくこどもプラン 小金井」の着実な実施を通して、子どもの歓声がいつも聞こえるまち、子どもを育てている親の笑顔が絶えないまち、そして子どもを中心とした世代間の交流がある活気のあるまちとして、小金井のまちが発展して欲しいと強く願っています。

布目　陽子

のびゆけ　小金井の子どもたち

改定版発行まで一年足らずという時期に、委員を引き継いだ。山のような書類と共に。作業としては、アンケートが終わってヒアリングを行うところだということだ。経験と実績と熱意あふれた委員さんたちは、がっちりとスクラムを組んで議論も白熱している。ＰＴＡや健全育成に関わったとはいえ、専業主婦で一人娘しか育てたことのない私には、仕事をしながら子育てするとか、子どもたちのために遊びの環境を整える活動をするとかいう世界は、全く初めてのものだった。

でも起草委員に入れていただき、ヒアリングでいろいろな方にお会いするうちに、このプラン改定に関われたことがとてもよい勉強と経験になり、たくさんの方たちと面識が得られたことは、すばらしい財産になった。子どもたちを取り巻く社会状況は決して楽観的なものではないけれど、小金井の子どもたちにはみんなが力を合わせて作り上げた、このプランがあります。

このプランをうまく活用していただければ幸いです。そして、「のびゆけ　小金井の子どもたち」！！

土屋　多喜榮

のびゆくこどもプランの今後の発展を期待しています。

杉山　うた子

少子化の流れが進む中で、子ども達が育ちにくい状況にあることは、誰もが感じているところです。

今回のプランの見直しに参加できましたことは、私にとって意義のあることと思っております。これから、この日本を支えてくれる大事な子ども達が、ゆったりとした環境の中で育てられ、保護者にとっては、育児の楽しさ、子どものかわいらしさ、満足度が生じる子育てができる社会を目指し、このプランを策定できたことをうれしく思います。

子どもも親も共に育っていくための支援が、多くの人たちにいきわたるようにと心から願っております。

成清　初美

この想いが小金井の子どもたちに伝わりますように

結婚を機に小金井市に住み始めた私と夫は、フリーのライターとカメラマンとして、仕事中心の毎日を送っていました。ご近所との付き合いもなく、昼間は取材、夜は寝ずに原稿書き、休みは睡眠不足を解消するだけ。緑濃く、自然豊かなこの地で、季節を楽しむ余裕すらありませんでした。ところが、子どもが生まれてからというもの、私たちの暮らしは大きく変わります。足元を行き交う小さな虫、雲ひとつない新月の夜、あの懐かしい草の香り……。そんな自然を感じながら、娘が初めて「見たり」「触れたり」するものを共有し、一緒に成長しているような気持ちで毎日を暮らしています。

仲良くなった近所のおばあちゃん、保育園のお母さんやお父さん、そしてこのプランに携わったことで知り合った人たち……。どれも「子ども」を通して広がった出会いです。このプランも「子どもをまんなかに」というイメージを大切にしながら作りました。施策というものは、ともすれば「大人の都合」で作られがちです。何度となく「大人の都合」に傾きそうになることもありましたが、そんなときはいつも誰かが「子どもにとって何がいちばんかを考えよう」と、子どもの目線に立ち戻るきっかけを作ってくれました。

任期後半から会長をつとめさせていただきましたが、委員みなさんの力強いサポートのおかげで、プランを完成することができました。ありがとうございます。こだわりのあまり、うるさく指示する私に、粘り強くおつき合いくださった事務局のみなさん、本当にお疲れさまでした。最後に夫と娘へ。留守がちだったママを支え、励ましてくれてありがとう。感謝しています。

安藤　能子

今回の見直し作業をした、小金井市の子ども関連総合施策大綱とも呼べる「のびゆくこどもプラン 小金井（2001年３月）」の巻末に、当時の委員長から次のような言葉をいただいています。

『…（略）…やや大げさかもしれませんが、今回の手作り計画が前例となって小金井市でほんものの市民参加、住民参加による自治（自己統治）が実現することを期待しています。ただ、それは、当然のことですが，市民だけの力で実現できるわけではありません。市民の意識変革・自発的努力とともに、職員の皆さんの意識変革・協力が不可欠です。…さあ、計画はできました。つぎは、それがどのように生かされるかです。カウンターパワーとしてその過程をチェックしつつ、同時に計画の具体化に協力する自発的委員会の組織化を期待しております。』

あれから４年後小金井市でも、「市民参加条例」ができ、財源委譲を含めた地方自治体の自立が言われる中、「市民と行政との協働が、地域社会の再生になり得る施策とは何か？」「納税による市民のお金が有機的に使用され、子どもを含めた全市民に還元され、再び納税の源となる、『地産地消』の経済システムはいかなるものか？」などなど課題は尽きません。

アンケート調査の自由記述を始め、ヒアリングや街角での市民の声を数多く聞かせていただきましたが、一部しかプランにもり込めませんでした。それでも、市民としての自発的努力に終わりはないと感じています。なぜなら、今大人である人全てが、かつては子どもだったから。そして、子育ち、子育てが、個人を超えた人類としての最も優先順位の高い、営みであると確信しているからです。

野垣　成恵

５年前、「のびゆくこどもプラン 小金井」の策定に参加させていただき、今回その見直しにも又携わることができるという、幸運に恵まれました。

前回は、保育園児と小・中学生の親でしたので、自分の視野の中心は低年令層にありましたが、こどもの成長と共に、自分自身の目が中高生世代に移っていることを実感しました。不登校も経験し、学校以外で中高生の抱えている問題が、中々解決されないもどかしさもありました。

また、実際の施策の進み具合を見た時、一時保育が始まり、「子ども家庭支援センター」ができ、「子どもの権利条例」の策定が進み、ファミリー・サポート・センターも開設されるなど、一定の成果が見られるのは喜ばしいことですが、まだまだ「子ども一人の人格」として成人と同じ権利を尊重されるという基盤が固まっていないことを痛感しました。

これを変えていくには、市民の力も勿論ですが、市として行政そのものの重点をもっと子どもに移さないことには、難しいものがあると思われます。遅々とした歩みではあっても、堅実に「子どもも住みやすい町」を作ることを目差し、これからも市民の目で、プランの実現に力を注ぎたいと思います。

近藤　　泉

「進化する、深化する、真価を発揮する、小金井のこどもプラン」であれ！

プランができてから足掛け５年、この間の時代の変化は大きい。今回の改訂版は、こども達の実際の姿を目の前に思い浮かべながら様々な施策を点検･整理しました。さらに未来の子ども達と対話するつもりで「こういう小金井でありたい。」という新規事業も盛り込むよう努力をしました。行政人ではない市民委員は非力ではありますが、市の暖かく熱い支援の必要性を精一杯訴えました。

今後もこども達と社会の変化に対応できるよう、更に進化していくべきだと実感する改定作業でした。

こども達の育っていく環境には、複雑な課題が見え隠れしています。一時しのぎではない、子どもの輝く生命を守りきれる、もっともっと深化させた施策が求められていると実感します。今回「こどもプラン」を「次世代育成支援行動計画」として「目標値」「評価」の設定をしました。数に表しにくいものもありますが、小金井市の責任ある今後を信じたいと思います。

「こどもプラン」が策定された当時の子ども達の中には、大人の立場でこども支援をしている方、すでに親になって子どもを育てている方もいます。支援者の育成、次世代の「親」育て・「親」育ちも見据えて策定されたプランも、いよいよ現実のものとなってきました。小金井スタイルの「こどもプラン」が真価を発揮できるよう力強い支援をともどもに――。

最後に委員として素晴らしい仕事を頂いたことに心から感謝申し上げます。

なお、改訂版に盛り込めなかった意見として、下記について申し添えさせていただきます。

①【公民館を中心とした子どもの地域世代間交流】

親子連れには使える機会の少ない公民館で、高齢者との交流事業を企画実施。互いに支え･支えられる地域の良き隣人として日頃から交流を深め、高齢者が子育て経験者として子育ての不安解消の力になれるよう図りたい。

②【中学校の部活動へ有償外部コーチの派遣】

子どもの健康な心身の発達のためにも部活動の意義は大きく、恒常的な指導者確保のための予算措置が急務。

週５日制や学習評価の変更に伴う教員の業務の増加、部活動指導の専門性から、教員が充分に中学校の部活動の指導に当たれなくなっており、部の数も減少傾向。現在の外部コーチ派遣補助金は１校一人分では不足、更なる予算確保が求められる。

高橋　　智

子育て支援のユニヴァーサル・デザインを求めて

ユニヴァーサル・デザインとは、「社会的弱者」を含めてすべての市民が使いやすいように製品、環境、情報などを設計することを意味します。推進市民会議がこの２年間、「のびゆくこどもプラン 小金井」の改定において全力で取り組んできたのも、子育ち・子育て支援におけるユニヴァーサル・デザインの追求であったと思います。とくに行政に声が届きにくい「子育ち、子育てに困難を抱える家庭」（障害、外国籍、ひとり親、養育困難など）の支援の問題にも多くの時間をかけ、ヒアリング調査・視察などの実態把握を通して改定作業を進めてきました。

私は公募委員として推進市民会議に参加しましたが、本職は東京学芸大学で障害児教育・特別ニーズ教育の講座を担当しており、小金井のとくに障害児の保育・療育、教育、福祉の条件に関しては、残念ながらかなり低い水準にあると認識しています。市政もぜひこれらの分野に重点的に取り組み、緑多い豊かな自然環境や高い市民性などと融合させて、子育ち・子育て支援における「ユニヴァーサル・デザイン都市」として、小金井がいっそう魅力的になっていただきたいと思います。現在、小金井市と各種の連携が深まりつつある東京学芸大学の存在もその重要な資源となるでしょう。

さて推進市民会議の２年間にはたくさんの出会いと学びがありました。なかでも会長をはじめ女性委員の方々の高い市民性、民主主義と行動力には圧倒されるばかりでした。その際たるものが、「のびゆくこどもプラン 小金井」の改定を知っていただくため、推進市民会議と子育ち・子育て支援の市民活動が連携して手作りで取り組んだ「のびゆくこどもフェスタ」の開催でした（７月30日、公会堂）。推進市民会議は解散となりますが、地域における頼もしい子育ち・子育て支援の多様な市民活動が確認できたことは大きな安心です。

最後になりましたが、個性的なあまり拡散しがちな推進市民会議をしっかりとサポートしていただいた子育て支援課の事務局の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

邦永　洋子

見直し改定作業の終わりに

「子どもの時何をして遊びましたか」という問いに、嬉々として答えられるような大人に子どもたちを育てたい。友だちがいて、自然があって、暑いとかひやっとしたとか、その当時の感覚までも思い出されるような経験を子ども時代にたくさんしてほしい。そのことが人としての強さややさしさ、豊かさになっていくに違いないから。そして自分の住む街を大好きになってもらいたい。「小金井にプレイパークを」という活動を通してこのような思いを抱き、今回の見直し改定作業に参加しました。

今回行った「小金井市次世代育成支援に関するニーズ調査」でも、平日の放課後の過ごし方について、外で自由に遊ぶというより時間も場所も仲間も限られた中でかろうじて遊んでいる状況だと見て取れます。子どもたちの放課後が変わったのは今に始まったことではありませんが、依然続く子どもの時間の変容が、子どもたちの心を病ませているのではないかと心配です。大人が変わらなければという思いを強くした二年間でした。

子どもたちに希望のある未来を手渡す責任は市民も行政もともに担っています。これからますます子育て支援の協働の場が広がると思います。どうぞ、このプランの理念「子どもの権利」を真ん中において進められるように心から願っています。

最後に不慣れな場で事務局や委員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。